

関市の伝統・ 産業・生活をPR



桜ヶ丘中学校パソコン部が作成したホームページが「平成 21 年度第 25 回学習ソフトウェアコンクール」で、児童生徒作品の部では最上位である日本児童教育振興財団賞を受賞しました。部員たちは市長応接

室で電子黒板を使って出来栄えを市長に披露し、工夫した点や苦労した点などを説明しました。受賞した作品は同校のホームページ(<http://www.rd.mmtr.or.jp/~sakurajh/>)から見るすることができます。

あんな事、こんな事



道路愛護の活動を^{ただ}称えて

星ヶ丘の住民らで組織される「星ヶ丘クラブ」が、道路の美化や清掃活動など道路愛護活動への顕著な功績により、国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所から感謝状が贈呈されました。同クラブは、昭和 63 年から国道 156 号線にある星ヶ丘地内の花壇の管理や歩道の清掃活動を 20 年に亘って続けており、この活動は現在も年に 6 回ほど行っています。

二期作に挑戦

8 月 18 日、武儀東小学校の 5 年生が、同校近くの水田で季節外れの田植えを行いました。これは地域の自然や文化を守り伝える同校の「里山学習」の一環として行われており、今回初めて二期作に挑戦しました。地元で自営業を営む土屋義昭さんの指導で、苗を手で植えたり、田植え機を使って植えたりしました。今回植えた苗は 10 月下旬に収穫できる予定です。





ユーモアたっぷりの出し物

大門町の大門商店街で8月17日、「お十七夜」が行われました。時の話題などを、野菜を使って表現する「出し物コンクール」では、衆議院議員総選挙や全国豊かな海づくり大会を題材にしたものなど18点が展示されました。お十七夜は江戸時代から伝わる伝統行事で、当時、流行病に悩んだ住民が野菜を供えて祈ったら病気が治ったのが始まりといわれています。

地域の安泰を願うお祭り

8月16日、上白金地区に江戸時代から伝わる「跳ね込み祭り」が行われました。このお祭りは、1664年に長良川がはらんしたとき、濁流の中ご神体を民家に移して守ったことが起源とされ、ご神体を運ぶ姿が跳ねるようであったことから「跳ね込み」という名がついたといわれています。同地区の白山神社から、ご神体を預かる御神房家までかねと太鼓を打ち鳴らしてご神体を運び、9月1日まで守られました。



体を動かし一緒に歌おう

関市文化会館で、南夢未さんの「だっこでふれあいコンサート」が開催され、2～5歳の子どもの持つ約60組の親子が参加しました。この行事は、関市シルバー人材センター子育て支援事業、関市ファミリー・サポート・センター、地域子育て支援センター「ははこぐさ」が初めて共同で主催したイベント。参加した親子は一緒に歌を歌ったり体を動かしたりして楽しいひと時を過ごしました。

野菜が織りナス物語

出来町、吉田町、西町、吉本町一帯で8月23日、「地蔵祭り」が行われ、この4自治会による「地蔵盆だしコンクール」が開催されました。時の話題をテーマに、野菜を使って作られた作品13点が軒先に並びました。今年は来年開催される全国豊かな海づくり大会にちなんだ作品が多く、さまざまな野菜で作られたヤマリンが大会成功を呼びかけていました。



こぼれ話



保健センターの事業に赤ちゃんふれあい体験があります。これは、核家族化や少子化で乳幼児との触れ合いの機会が少なくなってきたといわれる中学生を対象に毎年夏休みを利用して実施されています。参加した中学生は、本物の赤ちゃんに触れることで、そのかわいらしい表情やしぐさに、人形による実習では得られない感動を味わったり、お母さんとの会話の中で育児の大変さを実感したりして、両親への感謝の気

持ちを改めて感じる事ができたようです。(紙面の都合で、中学生の感想をご紹介できないのが残念です。)

このような赤ちゃんやその母親との交流を通して、自分自身の成長過程を振り返って、親への感謝の気持ちを持つとともに、命の大切さや育児について学ぶことはとても貴重な経験だと思いました。今後も男子女子問わず、よりたくさんの中学生の皆さんに参加していただきたいと思います。